

指導を改めて見直す必要性を痛感

8月号の特集は、それぞれの立場に立脚した高大接続改革が紹介されており、相互理解を果たせる素晴らしい特集だった。群馬県・伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校の飯塚秀彦先生の「教師は生徒に『考えてごらん』とよく言うが、比較したり類推したりするものを設けていない限り、本当の思考力・判断力を問うているとは言えない」という指摘は胸に突き刺さった。また、そのような先進事例を見る度に、グループワークや観点別評価の重点化などに伴う中学校と高校との学びのギャップ、多くの高校で行われている講義型授業と大学での学びとのギャップを痛感する。

〔愛知県立日進西高校・野々山新〕

生徒が地域の課題を考える重要性を感じた

8月号の「ハートをかがせー」を読み、地域の切実な課題を高校生が考えることは重要だと感じた。町づくりに若い世代が積極的に関わっていくことが、地域の活性化につながるのだろう。継続的に取材してもらい、取り組みの変化、生徒の変化を知りたいと思った。

〔岡山県立岡山大安寺中等教育学校・杉山義則〕

教師の意識次第で生徒は変わる

8月号の「新課程 指導最前線」で紹介された、兵庫県立加古川東高校の取り組みが参考になった。模試分析は、本校でも課題の1つだ。同校では、学年団が主体となり、細やかな連携がなされているのだろう。「教師の意識次第で生徒は変わる」ことを改めて感じ、

Reader's VIEW

Volume 4

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

本校の教師にもこの事例を紹介して、具体的な取り組みにつなげていきたいと思った。

〔愛媛県・私立新田青雲中等教育学校・菊池岳史〕

生徒の信頼と期待に応え、高校の求心力を高める

8月号の「指導変革の軌跡」で紹介された北海道札幌北高校の記事で、1学年主任の小山浩二先生も言われていたが「学校の求心力を高める」ことは重要な視点だ。生徒が自分の進路実現のための方策を、全て高校で工面するのではなく、「生徒が高校を信頼し、どのように活用していくのかを考える」ことがポイントではないだろうか。高校は、そのような生徒の信頼と期待に応えなくてはいけない。

〔山形県・匿名希望〕

専門高校の生徒が活躍できる場を増やすべき

8月号の「半歩未来を考える教育オピニオン」を読み、日本は普通科高校が多いので、専門高校の生徒が活躍できる場を増やし、専門高校の魅力を伝えることが必要だと感じた。「アグリマイスター顕彰制度」は農業高校の生徒の技能を評価し、外部に発信していくものであり、このような取り組みが他の専門高校にも広がっていくと思う。

〔茨城県立水戸第一高校・川久保典昭〕

教師川柳

忘れまい 生徒目線で見る景色

広島県立広島観音高校・長光優樹

編集後記

◎今回の特集の取材では、アクティブ・ラーニング（AL）型の授業を拝見しました。どの授業でも感じたのは、生徒が活動をしている時の机間巡視の難しさです。一斉型授業での机間巡視は、生徒が問題を解いている時などであり、生徒の状況は手の動き具合などで把握できると思います。しかし、AL型授業での机間巡視では、話し合いの途中から生徒たちの話を聞くことが多くなるため、活動の状況を判断するのが難しいと思いました。生徒が主体的になるAL型授業では、様々なに変化する生徒の状況を把握するために、ますます教師もアクティブになるのだと感じました。（柏木）

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「改良！指導ツール ピフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



VIEW21 10月号 Vol.4

2015年10月16日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太
 撮影協力 荒川 潤、福山 哲、松原 誠、ヤマガテイッキ
 イラスト協力 伊藤美樹
 VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2015

VIEW21

2015
December
12月
Volume 5

次号は
12月11日発行(予定)
『VIEW21』高校版は
年6回の発行です